

平成27年度 港区立中之町幼稚園経営計画

港区立中之町幼稚園長 後藤由美子

1. はじめに

港区立中之町幼稚園は、本年度創立125年を迎える。明治23年5月に創立された本園は、地域に愛され、見守られながら歴史と伝統を育んできた。地域の方は幼稚園に非常に協力的で本園の教育を温かく支えてくれている。保護者も、行事などに協力を惜しまず、サークル活動などで保護者同士の親交を深めている。

昨年度9月に長年住み慣れた園舎が、地域の再開発のために取り壊しになることに伴い、赤坂中学校校舎前の仮園舎に移転した。移転に伴う園児の動揺を危惧したが、幸い園児は新しい環境にいち早く順応した。仮園舎は東京ミッドタウンに面している。大きな商業施設ではあるが、敷地内は木々が多く配されてそれらが園舎からも良く見える。隣接する檜町公園、赤坂中学校校庭など都心としては緑を多く目にするができる環境となった。園舎は以前より広く、保育室数も増えた。それに伴い、募集人数も増え、今年度は、3歳児42名、4歳児35名、5歳児29名 計106名でのスタートとなった。

赤坂アカデミーを構成する、赤坂小学校、赤坂中学校とも隣接し、緊密に連携が取れている。今年度から本格的にスタートする幼・小中一貫教育に向けて、研究授業や協議会といった教育内容での連携、園児・児童・生徒が知り合い、親しみをもち、安心して就学できるようにするための交流活動も、さらに活発化していきたいと考えている。

幼稚園教育は学校教育のスタートの時期として、人間尊重の精神に基づき、感性、知性を育み、「生きる力」の基礎を培う責務を担っている。

港区教育委員会の「教育の港」の基本姿勢〇区民に信頼される幼稚園〇区民とともにある幼稚園〇子供たちが誇れる幼稚園 を目指して、園経営の工夫や改善を行い、充実していく。

2. 中之町幼稚園の教育目標

〇げんきな子

- ・心も体も健康で、身の回りを自分で整え、体を十分に動かし、進んで運動しようとする幼児

〇かんがえる子

- ・遊びや生活の中で、好奇心・探究心をもって環境と関わり、自分で考え、判断しながら遊ぶ幼児

〇なかよくする子

- ・互いのよさを認め合い、人との関わり合いを喜べる、やさしい心をもった幼児

〇がんばる子

- ・様々なことに挑戦し、困難なことにもくじけず向かっていく気持ちをもった幼児

3. 目指す幼稚園像

教育目標を踏まえ、地域に根ざした幼稚園として、保護者・地域との絆を深めながら、幼児・保護者・職員がともに育つ幼稚園経営を進める。

具体的な幼稚園像は以下の5点である。

- 幼児が遊びを通して学び、友達とのつながりの中でそれらを共有することで豊かな学びにつなげる幼稚園
- 発達の連続性を踏まえ、家庭や小学校以降の教育とつながりを持ち、指導の充実をはかる幼稚園
- 教師が常に保育を振り返り、自らを高めながら、それぞれのよさを発揮し、協働して職務にあたる幼稚園
- 幼児が地域とのつながりの中で様々なことを学び、地域を愛し、ともに支え合う気持ちを育む幼稚園
- 保護者が子育てと向き合い、仲間としてつながり、助け合い、育ちあう幼稚園

3. 中期的目標（平成25年度～27年度）

- 地域に愛され、地域の中核となる幼稚園として、さらなる発展を目指す。
- 教育課程及び年間指導計画の充実・検証・改善を行いながら、中之町幼稚園の教育の在り方を確立する。
- 教職員の資質向上を推進し、中之町幼稚園の教育の情熱をもって取り組む教職員組織を確立する。
- 園内外の環境を見直し、中之町幼稚園の教育のために必要な環境を整備・充実する。

4. 今年度の取り組み目標と方策

目指す幼稚園像の実現に向けて、今年度は以下のような取り組みを行う。

○幼児が遊びを通して学び、友達とのつながりの中でそれらを共有することで豊かな学びにつなげる幼稚園
・様々な運動遊びに進んで取り組み、様々な動きをしたり、のびのびと体をうごかしたりする楽しさを味わえるようにする。園内研究のテーマを「幼児が意欲的に体を動かす音を楽しむための環境構成の工夫」とし園内で取り組んでいく。

- ・年齢に応じた指導の重点を踏まえた適切な指導を行うとともに、教師が連携し、時期に応じた異年齢の交流を計画的に行う。
- ・避難訓練・防犯訓練を見直し、関係諸機関・保護者と連携を取りながら、自ら身を守る力を培っていく。
- ・絵本コーナーや各クラスの絵本の配置を工夫し、イメージの世界を楽しんだり、言葉に興味をもったりできるようにする。
- ・環境に配慮した生ごみリサイクル土作りを行い、季節に応じて野菜や果物を栽培し、収穫して食べる経験を通して、様々な食材への関心や食物への感謝の気持ちを育む。
- ・赤十字登録園として月一回のピカピカデーの取り組みで奉仕の精神を学んだり、ごみの分別やエコキャップ回数などに協力してエコ活動に関心をもったりする。
- ・お茶会や伝統行事などで日本の伝統を意識したり、外国籍の幼児の母国の言葉や国旗に関心をもったりして、国際化に対応できる幼児の育成を図る。

○発達の連続性を踏まえ、家庭や小学校以降の教育とつながりを持ち、指導の充実をはかる幼稚園

- ・家庭と連携・協力し合い、基本的な生活習慣や態度を身に付けて、自立できるようにする。
- ・保育参観や参加、保護者会、懇談会、個人面談等を通して、幼児期の発達や、幼児期にふさわしい生活について保護者の理解を深め、家庭と連携した幼稚園教育の充実を図る。
- ・赤坂アカデミーとして、赤坂小学校・赤坂中学校との交流・連携の機会を充実し、行事や相互の研究保育・

研究授業への参加などを通して、互いの教育に対して理解を深める。

- ・運動機能を高める指導の充実を図るために、赤坂小学校のプールを借用したり、赤坂中学校の校庭を借用したり、校庭や体育館で専門家によるボール遊びの指導を受けたりする。
- ・近隣の赤坂保育園・南青山保育園との交流・連携を深め、相互の行事や保育参観・参加の実施や施設利用、小学校の行事への参加の機会の共有などを行い、相互理解を深める。

○教師が常に保育を振り返り、自らを高めながら、それぞれのよさを発揮し、協働して職務にあたる幼稚園

- ・自己評価・学校関係者評価を生かし、教育内容を改善することで、教員の資質向上を図る。
- ・若手教員が積極的に学ぶ姿勢をもつとともに、他の教諭はそれらの模範になるよう、日々の保育や職務に邁進する。
- ・幼稚園の教育内容を工夫しながら情報発信し、保護者や地域の方に教育内容を理解してもらえるよう努める。
- ・幼稚園カウンセラーや特別支援アドバイザーなどから指導を受けたことを自らの指導に活かしていくようにする。

○幼児が地域とのつながりの中で様々なことを学び、地域を愛し、ともに支え合う気持ちを育む幼稚園

- ・もちつき、キャンプごっこ、お茶会、赤十字奉仕活動など、折々に地域の方の指導を受けたり、地域の老人施設の訪問をしたりすることにより、幼児が様々な人とかかわり、親しみがもてるようにする。
- ・赤坂中学校と赤坂地区委員会共催の防災訓練に、赤坂小学校とともに参加し、親子で防災についての知識を得たり、地域とのつながりを感じたりする機会にする。

○保護者が子育てと向き合い、仲間としてつながり、助け合い、育ちあう幼稚園

- ・保育参観・参加や懇談会などを行い、保護者が幼稚園での我が子の姿を理解したり、子育てについて考えたりできる場とする。また、土曜日に行事を行う機会を作り、多くの保護者が参加できるようにする。
- ・教員や幼稚園カウンセラーへの相談が気軽に受けられるようにし、子育ての悩みを少しでも取り除いていけるようにする。
- ・PTA活動やPTAサークル活動など、保護者が子育ての楽しさを実感したり、自分の力を発揮したりする充実感を味わえる機会を保障していく。
- ・安心して子育てができるよう、必要のある幼児について、9月より預かり保育を実施する。